

平成29年度
安城市行政評価報告書

安城市行政評価委員会

平成29年12月6日

安城市長 神谷 学 様

安城市行政評価委員会

委員長 横山 幸司

副委員長 村林 聖子

委員 磯貝 禎之

委員 市川 彩

委員 鳥居 保

委員 松岡 万里子

平成29年11月12日に公開行政レビューを実施し、その結果を踏まえ、このたび行政評価報告書をまとめましたので報告いたします。

記

行政評価という仕組みは、各自治体が持続可能な行政経営を行っていく上で、行政改革とともに必要な取組みとされていますが、安城市では、事業仕分けに代わる新たな手法として、市民と行政との協働による「公開行政レビュー～市民による市民のための公開事業評価～」を平成26年度から4年間継続して実施されました。

今年度の公開行政レビューでは、今まで以上により有意義な公開行政レビューにするため、市民評価員に対して事前に説明会を実施する等、公開行政レビュー及び対象事業に対する理解を深めていただきました。

そして、公開行政レビューでは、3つの事業に対して評価を行いました。うち1事業が「拡充」、2事業が「廃止」という結果になりました。

昨年度同様に論点が明確であったことから、市と評価員との活発な議論の場になったとともに、市民評価員の人数を20人から10人に変更したことにより、一歩踏み込んだ議論ができ、評価員には各事業の必要性や効率性等の観点から、客観的な評価を行っていただけたものと思っております。

このたび、今回の公開行政レビューにおいて評価員から出された意見等を集約し、当委員会として行政評価報告書を次のとおり取りまとめました。

市は、この報告書の内容を踏まえ、事業内容を検証し、改善に向け、積極的に取り組んでいただくことにより、引き続き持続可能な行政経営が図られるよう期待いたします。

1 安城市の行政評価（公開行政レビュー）への取り組み

(1) 公開行政レビュー「市民による市民のための公開事業評価」のポイント

- ・「外部の視点」、「公開議論」、「市民参加」という3つの視点で実施しました。
- ・市は事業をわかりやすく説明することで、市民・評価員にご理解いただき、そして、論点を明確にすることにより、市と評価員との活発な議論の場を創出しました。
- ・対象事業は、事務事業総点検から事業の「見直し」と評価した事業のうち、市として外部の意見を聞く必要がある事務事業を中心に選定し、行政評価委員会が3事業を選定しました。

(2) 事業選定の流れ

予備選定

783事業⇒7事業

平成28年度に実施した事務事業総点検対象事業783事業のうち、「見直し」と判断した事務事業から211事業を抽出。

抽出した事業から市として、外部の意見をお聞きしたい事業を中心に選定。

本選定

7事業⇒3事業

予備選定事業から行政評価委員会注で選定しました。

注行政評価に関する事項の調査審議を行う市の附属機関です。

(3) 選定事業

No	事務事業名	担当課
1	市民盆踊りの集い開催事業	生涯学習課
2	秋葉いこいの広場施設管理運営事業	環境都市推進課
3	学校図書館教育推進事業	学校教育課

(4) 公開行政レビューの実施

①実施日 平成29年11月12日（日） 午後1時30分から午後5時まで

②会場 アンフォーレ 1階 ホール

③参加者 コーディネーター：1人（行政評価委員会委員長）

評価員：13人

（内訳 行政評価委員：5人、市民評価員：8人（欠席2人））

④公開行政レビューの流れ（1事業55分）

（ア）担当課による事業説明（10分）

（イ）行政評価委員との質疑応答（10分）

（ウ）市民評価員・行政評価委員との質疑応答（25分）

（エ）評価員による評価（3分）

(オ) 行政評価委員の意見 (5分)

(カ) コーディネーターによる評価発表・総括 (2分)

⑤評価方法

行政評価委員及び市民評価員が評価区分にしたがい、評価。

※市民評価員の募集及び選出について

(ア) 市民抽出500名に対し5名程度を募集し、応募8名。

(イ) 行政に関心の高いパートナーバンク登録者143名に対し、5名程度を募集し、応募4名。(ただし行政評価委員・事業仕分け・公開行政レビューに参加した実績のあるパートナーバンク登録者を除く)

⑥評価区分 (5区分)

拡充：事業規模(事業量、予算、人員)を拡大し、事業内容を充実させるもの

現行どおり：事業規模または事業内容を現行どおり維持・継続するもの

要改善：事業規模または事業内容を現行どおり維持・継続するもので改善する必要があるもの

(実施主体の見直し、事業の手法・内容の一部見直し等)

縮小：事業規模または事業内容を減らすもの

廃止：事業を廃止するもの

(5) 平成29年度公開行政レビュー評価結果

(単位：人)

No	事業名	担当課	評価結果	評価結果内訳				
				拡充	現行どおり	要改善	縮小	廃止
1	市民盆踊りの集い開催事業	生涯学習課	廃止	0	0	1	0	12
2	秋葉いこいの広場施設管理運営事業	環境都市推進課	廃止	0	0	0	0	13
3	学校図書館教育推進事業	学校教育課	拡充	11	1	0	0	0

※事業No.1、事業No.2：評価員13人(行政評価委員5人、市民評価員8人)

※事業No.3：評価員12人(行政評価委員5人、市民評価員7人)

2 行政評価委員会における評価結果

事業名	1 市民盆踊りの集い開催事業【生涯学習課】
事業内容	盆踊りを通して、市内外の青少年団体のみならず、各種団体との交流を深めるとともに、安城市青年団協議会の活動のアピールの場として開催している。
論点	社会情勢の変化による青年団活動の衰退に伴い、青年団が市民盆踊りの集いを開催し続けることが困難となっていることから、新たな青年の交流・支援の場を設けていくこととし、市民盆踊りの集いを廃止したいが、どうか。
評価結果	廃止
意見等	事業の目的と時代の変化に伴う担い手不足といった現状等を踏まえ、青年団協議会主体の市民盆踊りは廃止して良いと考える。ただし、盆踊りのあり方については検討する必要がある。
今後担当課に取組みを求める内容	市民盆踊りに代わる青年の交流、支援となる事業展開を検討していただきたい。また、市民盆踊りについては他部署とともに市としての位置づけについて検討していただきたい。

事務名	2 秋葉いこいの広場施設管理運営事業【環境都市推進課】
事業内容	秋葉いこいの広場は、環境学習センターとテニスコート2面を有し、施設の管理運営や維持管理は指定管理者に委託している施設であり、環境学習センターでは環境に関する展示や体験講座のほか、会議室、多目的室及びテニスコートの貸出しなどを行っている。
論点	環境学習センターの機能である会議室、多目的室の貸し部屋は廃止し、環境学習事業は移転する。 よって、現行の指定管理者との契約が終了する平成30年度末をもって閉館し、建物を取り壊すこととしたいが、どうか。
評価結果	廃止
意見等	近隣の代替施設の整備状況や環境学習事業の移転先、建物の老朽化等を踏まえ、建物を取り壊して良いと考える。ただし、建物を取り壊した後の跡地利用については、今後も継続して実施するテニスコートも含めて、有効活用ができるよう検討していただきたい。
今後担当課に取組みを求める内容	建物の取り壊しに伴う環境学習機能の移転や貸し部屋の廃止について、現在の利用者等に代替施設の誘導を含めた周知を行ったうえで、事業の廃止を進めていただきたい。

事業名	3 学校図書館教育推進事業【学校教育課】
事業内容	学校司書を配置し、学校図書館の環境整備や利用促進を図るため、書籍管理の徹底や本の貸出し、児童生徒への読み聞かせ、調べ学習等の授業補助などを行っている。また、アンフォーレや地域ボランティアと連携し、学校図書館環境の活性化を図っている。
論点	全校に学校司書を常時1人配置とし、さらに子どもたちが読書に親しめるようにするために、学校図書館の環境づくりや図書情報館との連携、教育活動の推進を図っていききたいが、どうか。
評価結果	拡充
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・全校に学校司書を常時1人配置に向けて拡充することが望ましいが、小学生と中学生では、学習内容や関心等が異なるため、事業拡充に向けた優先順位を整理し、効果的な学校司書の配置を検討していただきたい。 ・事業効果を高めるために、専門性の高い学校司書の更なる資質向上が必要と考える。
今後担当課に取組みを求める内容	学校司書の配置の拡充に向けて推進していただきたいが、学校司書の資質の向上を図っていただきたい。また、効果的な学校司書の配置のあり方についても検討していただきたい。

3 総括的な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・3 事業すべてにおいて、市の提案どおりの評価となったことは、市が論点を明確にしたことにより、市の考えが評価員に十分伝わったと考えられる。 ・担当職員の説明は総じてわかりやすく、資料も工夫され、見やすくわかりやすく示されていた。一方で、説明をする際に、配布資料にない情報が見受けられたため、事業評価シートの附属資料を有効活用する必要がある。 ・今年度から市民評価員に対して、公開行政レビューについて今まで以上に十分な時間を設けた説明会を実施したことにより、公開行政レビューの意義、市民評価員の役割及び対象事業等に対する理解を深めることができ、より有意義な公開行政レビューを実施することができたと考える。 ・今後、各事業においては、今回の結果を踏まえ、他部署との連携を進め、事業の推進・展開をしていただきたい。
